

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790400034		
法人名	医療法人社団 大杉脳神経外科医院		
事業所名	グループホーム まおの里		
所在地	香川県善通寺市大麻町2080番地1		
自己評価作成日	平成22年9月11日	評価結果市町受理日	平成22年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.kagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790400034&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成22年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「施設」ではなく「我が家」。その人その人の時間が流れてその流れに合わせて、職員も寄り添い共に生活する。「職員時間」ではなく「その人時間」が流れていて、ゆったりと落ち着いた雰囲気である。認知症専門医である金子満雄先生、もの忘れ相談医である大杉保先生の指導を受け、毎日どこかしらで歌声が聞こえ笑顔が絶えない。その様子を毎月お手紙で御家族に報告している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所の方針として、長年、認知症に対する取り組みを積極的に行っており、利用者との関わり方を職員が継続的に学習している。その成果として、利用者の変化が顕著に表れており、症状の緩和や精神的な落ち着きを維持できるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、毎朝朝礼時に復唱している。	理念は職員が覚えやすく、理解しやすい表現で共有しやすいように工夫している。職員が認知症に対する継続した学習で理解を深めており、明るく笑顔で利用者を尊重した態度で接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館祭りや河川清掃に参加。地元の獅子舞や歌、踊りのボランティアの訪問、行事のときには幼稚園との交流も行えるようになったが、日常的な交流はこれからである。	地域の住民が気軽に立ち寄れる事業所を目指しているが、やや道路から奥まった位置にあり、立地条件から地域住民の目に日常的にはふれにくい。	日常的な交流ができるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症専門医の講演会に民生委員の方々に参加して頂くと共に事業所の取り組み状況を紹介。今後も色々な方にどんどんきて頂くよう計画していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の色々な方に参加して頂き、利用者の現状、写真など使用し活動報告を行い、事業所を理解して頂けるよう努力している	利用者の家族や地域住民の代表者が交代で参加しており、多くの方の参加を得ている。今後、継続的に参加してくれるメンバーも確保されたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の連絡協議会に参加すると共に地域包括支援センターの方と積極的に連絡するよう心がけている。	問題となる事案があった場合、速やかに連携をとり、早期の解決を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について常日頃より理解を深めるよう心がけている。施錠については玄関は盲点のため利用者の安全を第一に考えると必要だが、南側で日向ぼっこや気分転換ができるよう職員で見守りを行っている	帰宅願望の強い利用者がいたり、国道やJR線路が近い環境にあることから、安全面を考慮して施錠を行っている。	利用者の安全面に十分配慮しながらも、状況によって開放する時間帯を作るなど、抑圧感のない生活ができるような工夫に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者第一に考え、研修の実施、会議等で常に注意喚起している。入浴時等気を付けて観察を行うと共に言葉かけ等にもお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、実際に後見人制度利用手続き中の方がおられ、入居者の状態確認にもこられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安な点や疑問点などをお聞きし説明している。また、親族の方にも一緒に説明を聞いて頂き理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や電話があったときなどに、意見等をお聞きし運営推進会議などの報告する。	利用者が自ら選択したり、希望を話したり、自由に意見が出せる雰囲気がある。県外在住の家族も多いが、連絡をとる機会を多くして意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議や毎日の朝礼時、必要に応じミーティングの場を設けている。	職員からの意見や提案が出されると、その都度細かいことも話し合わせ、必要な改善や変更を取り入れている。意見は積極的に出し合うように職員間で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況等把握し資格や勤務年数も加味して判断するように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修はもちろん外部研修の情報も回覧し参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加して交流できるきっかけ作りをしているが、機会の確保をこれからも図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な時間をかけコミュニケーションを密にとるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望・要望・困っていることを話して頂けるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要とされているかできるだけ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを一緒に行い本人の意思を尊重している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況を報告しながらこれまでの生活状況を聞き摸索している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時などに入居前に利用していた美容院などに行っている。	市内出身の利用者が多く、外出時等は馴染みの場所の思い出話をしたり、会話にも積極的に地域の話を取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考え、気持ちよく生活し過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば、できる限り協力・支援し、その後の状況などもお聞きするよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動、言動、表情に注意し、職員間で情報交換して共有し、本人の希望を尊重し出来ることを考えている。	職員は会話や生活の様子から利用者の好みや希望を把握できるように努めており、居室の飾り付けや物の配置、生活習慣等も希望を尊重している。職員からの声掛けには認知症の改善を目指したプログラムが取り入れられており、利用者の持てる力を引き出そうとする働きかけがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人家族から自宅での生活の様子など時間をかけゆっくり話を聞かせて頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に応じた状況を記録に残しカンファレンス、毎日のミーティングで検討するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活状況を見ながら本人家族の希望などを踏まえ 家族などと話し合いカンファレンスを通して作り上げていくようにしている。	家族とも連絡を取り合い、職員の観察した内容からその人に適した計画を立案するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の様子・状態等を記録し、申し送りノート等を活用して情報の交換、共有を行いケアに反映できるよう心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を受け入れ家族との相談を行い、家族の気持ちも考慮できる事から行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅で使っていた馴染みのある物、馴染みのある店を大切に考えていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、本人家族が希望する医療機関を受診する。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が1日1回訪問し、職員と常に連絡し合い健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医との連携により行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医を交えて何回も話し合い、御家族の気持ちを確認していくよう努めている。が、御家族もその時になって始めて向き合い、判断に大変迷われることを伺った。	現状は終末期を迎えるような状況の利用者はいないが、今後の重度化や家族の希望によっては受け入れの事態も考えている。	事業所としての方針をより具体的に、今後の準備を進めておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態把握、バイタルチェックを行い協力医に即報告して指示を仰ぎ対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。夜間想定での避難訓練、緊急連絡体制の確認を実施している。	ホームは建物の1階部分で全面的解放できる窓があり、避難等には誘導しやすい。職員は避難訓練に対し積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	統一した声かけを行い、入浴時や排泄介助時は特に注意している。	利用者が好む呼び方や声掛けを行い、その人のこれまでの生活スタイルを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別で話せる時間をできるだけ作り、食事や入浴時散歩時など本人の希望や要望が言えるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も無理強いせず本人が嫌がることは強制しない。何がしたいか何ができるか本人にも聞きながら考えやってみよう。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後のスキンケアや定期的に美容師さんが訪問。または、馴染みの美容院へ行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や主に昼食の調理をしたり後片付けを皆で交代し実施している。盛り付けや食べやすい大きさなどにも考慮している。	食事の準備等は利用者が助け合いながら行ったり、利用者同士がお互いを気遣う様子があり、職員の働きかけによる相互の関係性がうかがえる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な水分補給を行い、食事も口からの摂取を原則とし補助食品などの使用や1食を2、3回にわけるなど本人に合せた食事での栄養摂取を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、その人の状態に応じ、その人にあった援助を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な誘導・声かけを行い、その人の状態に応じ、夜間ポータブルトイレの利用もしている。	利用者の特性に応じて声掛けや誘導を行い、できるだけ個人の可能性を引き出せるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分補給について常に注意し、主治医の指示にて薬でのコントロールや便秘が続く場合はその都度指示を受け解消している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、週間中に入浴が全員行えるように支援している。	入浴を嫌がる利用者もいるが、職員の工夫や誘導で抵抗なく入浴できるように介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活習慣や昼寝の時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を全員が把握し皆が分かるように整理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の出来る事を把握し、達成感を感じられるよう心がけ、散歩や外出をし、気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態や天候により外に出る機会をできるだけ増やしている。外出した場合感想を聞き改善点を把握するようにしている。家族の協力も得て外出支援している。	敷地内のスペースでも日光浴や園芸が可能な状況にあり、散歩等を行っている。また、近所のお店等への外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を聞き、本人で管理したい方は家族の了承を得て本人管理のお金を持っている。お小遣いとして小額お預かりさせて頂くことを入居時説明し、外出時にご自身で支払う場面を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話や手紙を出来るだけお願いし返事を書いてもらうように声かけしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みにあった曲を流したり、季節にあった草花を飾ったり装飾を考えている。また、園芸も行っている。	共用空間には、季節の花や利用者の作品を飾るなど、落ち着ける安心な場所となるよう環境づくりがなされ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いて過ごせる席の配置やゆったりと過ごせる空間作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活していた空間作りのため家人に頼み馴染みのある物をもって頂き、その人の部屋になるように一緒に考える。	利用者個人の希望やこれまでの生活に合わせ、居室は好みの状況にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前を大きく書いたり、入居者の方の状況に応じ、考え配慮していく。		